



なるせゆいっこの会による  
生活支援ネットワーク事業  
「安心して暮らせる  
地域づくりをめざして」

なるせゆいっこの会(東成瀬村)  
会長 鈴木 春一

平成23年、地域の高齢者世帯の生活支援を目的に、民間組織「なるせゆいっこの会」を設立しました。

社会福祉協議会や関係機関からの助言を得ながら、民間で行う「生活支援ネットワーク事業」による取組みを検討し、有志を募ったところ34名の会員が集まりました。

地域で暮らす住民が「お互い様」の気持ちでお手伝いできる仕組みを作り、少しでも高齢者が安心して自宅で自立した生活が出来るようにと、会員一同試行錯誤の連続で、これまで活動を続けてまいりました。

今年度の活動の財源は、会員からの会費と赤い羽根共同募金からの助成金です。

主な活動内容は、ゴミ出し、草取り、掃除、買い物代行、話し相手など日常生活の中でちょっとした困りごとを解決するお手伝いをする事です。これらのことは、従来の制度での対応が難しかったもので、時間は30分から一時間以内、利用料金は300円から500円の料金を設定しております。対応する会員が顔なじみということもあり、平成29年度は約40件ほどの依頼があり、会の活動が浸透している手応えを感じているところであります。



ゴミ出しの様子。  
重いゴミを地区の場所まで運びます。依頼主のおばあちゃんも一緒にヨイショ

また、会では季節の事業として二つのことを実施しております。  
一つは、春と秋の「おはぎ宅配サービス事業」です。会員が春と秋の彼

岸に、担当地区の高齢者世帯の様子伺いを兼ねて、おはぎ宅配の希望の有無を確認して回り、彼岸の中目、早朝から会員総出でおはぎを作って出来たてを会員が手分けして希望者宅へ届けているものです。おはぎ3個に果物付き、1セット200円の実費価格ということもあり大好評で、今秋もサービスク対象世帯数の約五割の91世帯からの注文がありました。一世帯2セットまでの数量限定注文としますが、もっと数を望む声が多く、対応を検討しているところです。



会員が集り、おはぎを作っている様子。

もう一つは、年2回の「買い物ツアー事業」です。普段ひとりでは買えない物が困難な高齢者に、買いたい物の楽しさを実感していただきたいという思いで、お盆とお正月の物入りの時期に合わせて実施しております。会員がマイクロバスに添乗し、隣町のスーパリーの店内を一緒に回って買いたい物をし、時には軽食を楽しんで、安全に自宅へ送ります。村の協力もあり、負担金なしで利用者に大変喜ばれている事業です。



2017/08/11  
村のバスを借りて、会員も付添います。普段買えない重い品物も、購入できました。

今後、地域住民へ更なる会のアピールをし、会員の増加を図り、移